

学問、文化、芸術の聖地、太宰府天満宮へようこそ

菅原道真(845-903)は、平安時代(794~1185)の伝説的な学者・政治家で、彼の学問的・芸術的な卓越性は日本の歴史・文化に深い影響を残しました。道真は死後、太宰府天満宮に祀られました。現在は天神として神格化され、学問・文化・芸能の神として信仰されます。毎年 1000 万人以上の参拝者が訪れ、文学や書道のゆかりが深い道真を偲んでいます。

境内には 6000 本以上の梅の木があり、その木や初春の開花を愛した道真を偲んでいます。本殿に向かう三本の橋は、過去、現在、未来を表しており、心字池は「心」または「精神」という漢字で表されています。

太宰府天満宮は、日本で最も重要な神社の一つで、全国 12,000 の天神の総本宮です。